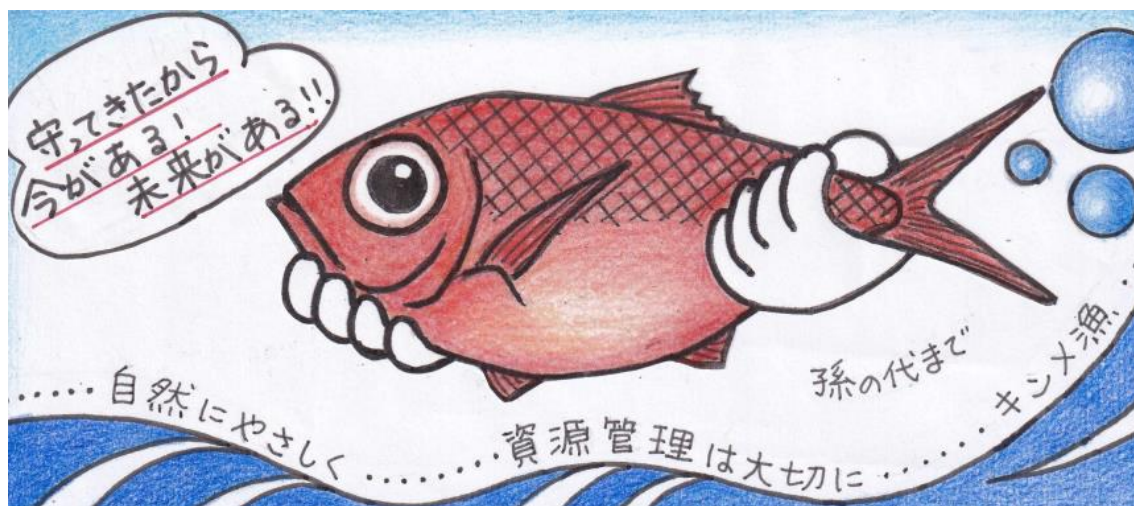


食と漁の地域未来フォーラム

キンメの持続的漁業がつくる浜の未来



と き：10月30日（土）13:00～16:30

ところ：勝浦市芸術文化交流センター（市役所となり）

参加費無料 資料代（500円）

一般参加者のみなさんに抽選でキンメダイをプレゼント

■基調メッセージ 「2022 国連小規模漁業年」と食の未来

日比絵里子（FAO 国連食糧農業機関駐日連絡事務所）



2011年FAOローマ本部企画室シニア・オフィサー、2013年紛争下のシリア事務所長、2016年サモア独立国アピアのFAO大洋州事務所長。大洋州14カ国を対象に栄養に配慮したフードシステムの構築に貢献。FAO入職以前は、国連人口基金（UNFPA）のニューヨーク本部、ウズベキスタン事務所、アジア太平洋地域事務所に勤務。上智大学法学部卒業、英国レディング大学大学院で国際関係学修士号、米ワシントンDC ジョンスホプキンス大学大学院 SAIS で国際関係学修士号を取得。国連機関で25年以上にわたり活躍。

共催：勝浦市・FAO（国連食糧農業機関）駐日連絡事務所
JCFU 全国沿岸漁民連絡協議会

後援：勝浦漁協・新勝浦市漁協・東安房漁協・鴨川市漁協・御宿岩和田漁協・千葉県沿岸小型漁船漁協・勝浦市観光協会・勝浦鮮魚商組合・FFPJ 家族農林漁業プラットフォームジャパン・NPO 法人21世紀の水産を考える会

プログラム

主催者挨拶：土屋 元（勝浦市長） 来賓挨拶：西田貴亮（水産庁）

■リレートーク

1. キンメとはどのような魚なのか 尾崎真澄（千葉水産研究センター）
2. キンメをどのように大切に釣っているのか 三上次雄（キンメ漁師）
3. キンメ汁の美味しさを伝える 渡辺美恵子・本庄梅子（漁協女性部）
4. イラストでやさしく漁業の世界を伝える 今井和子（主婦）
5. 消費者と生産者が結ぶ魚の食育活動 栗原澄子（伝統食の会）
6. 魚のおいしいまちづくり 二平 章（ひたちなか市魚食推進協議会）

■開催趣旨：

外房沖のキンメ漁、漁民たちはきびしい操業規則でキンメ資源を守り続け、今では日本一に。国連は「持続可能な発展目標（SDGs：エスディーズ）」「家族農業・漁業10年」をかけた、9割を占める家族農業・漁業こそが飢餓を無くし持続可能な社会をつくりあげる力だと宣言。また、FAO 国連食糧農業機関は、環境や次世代の人びとに配慮した水産資源の持続的な利用を呼びかけています。外房のキンメ漁は、国連の提言どおりのサステナブル（持続可能）な漁業です。フォーラムでは、国連が提唱したSDGsについて学び、外房のキンメ漁のすばらしさを知らせ、地魚を利用した「魚のおいしいまちづくり」について皆で考えます。

●SDGs(エスディーズ)（持続可能な発展目標）ってなに？

次世代が幸せに暮らせるように、貧困や飢餓を無くし、環境を守るために 2030 年までの実現をめざし国連が決めた 17 の目標のこと。

- ① 貧困をなくそう、② 飢餓をゼロに、③ すべての人に健康と福祉を、⑩ 人や国の不平等をなくそう、⑪ 住み続けられるまちづくりを、⑭ 海の豊かさを守ろう、⑯ 平和と公正をすべての人に、などの目標がある。

●FAO（国連食糧農業機関）とは？

飢餓と食料不足、栄養不良をなくすること、農業、林業、漁業をより生産的かつ持続可能にすること、農村の貧困を削減すること、包摂的かつ効率的な農業食料システムを可能にすることの5つの事業を推進する国連機関。

